

作成日 : 2007年10月24日

改訂日(V.3) : 2009年7月8日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : ニチノーグレネードMC

会社名 : 日本農薬株式会社
住 所 : 〒103-8236 東京都中央区日本橋 1-2-5 栄太楼ビル
担当部門 : 環境安全部
TEL. 03-3274-1887, FAX. 03-3281-5462
e-mail: kankyuanzen@nichino.co.jp

休日の連絡先 : 04-2929-8961 (A L S O K)

用途及び使用上の制限 : 白蟻防除剤

MSDS番号 : 508-35(M07-38)

2. 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

有効成分化学名(一般名) :

- 1) 5 - アミノ - 1 - [2,6 - ジクロロ - 4 - (トリフルオロメチル)フェニル] - 4 - [(トリフルオロメチル)スルフィニル] - 1H - ピラゾール - 3 - カルボニトリル
(一般名 フィプロニル)
- 2) (±) - 2 - メチル - 4 - オキソ - 3 - (2 - プロピニル) - 2 - シクロペンテニル(±) - シス/トランス - クリサンテマート
(一般名 プラレトリン)

成分及び含有量 :

| 成 分 | 含有量 | CAS No. | 安衛法 No. | 化審法 No. |
|--------|-------|------------------|------------|----------|
| フィプロニル | 2.0% | 120068-37-3 | 8-(2)-1163 | (5)-6414 |
| | | 化管法第一種指定化学物質 | | |
| プラレトリン | 1.0% | 23031-36-9(ラセミ体) | 3-(3)-95 | (3)-3783 |
| 〈その他〉 | | | | |
| 天然多糖類 | 1.6% | 非公開 | 非公開 | 非公開 |
| 溶剤 | 20.4% | 非公開 | 非公開 | 非公開 |
| その他 | 1.4% | 非公開 | 非公開 | 非公開 |
| 精製水 | 残 | 7732-18-5 | 適用外 | 適用外 |

3. 危険有害性の要約

有害性 : 眼を刺激する可能性がある。

環境影響 : 水生生物に対し極めて強い毒性を示す。

物理的及び化学的危険性 : 該当しない。

分類の名称 : その他の有害性物質

4. 応急措置

吸入した場合 : 被災者を速やかに空気の新鮮な場所に移し、体を毛布等で覆い、保温して安静に保つ。呼吸が弱かったり、止まっている場合は、衣類を緩め呼吸軌道を確認した上で人工呼吸を行う。呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。直ちに医師の診療を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱がせ、付着部を多量の水や微温湯と石鹼でよく洗浄する。異常が現れたり痛みが続く場合は、医師の診療を受ける。

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で15分以上洗浄した後、直ちに医師の診療を受ける。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよくいきわたるように洗浄する。

飲み込んだ場合：水で口の中をすすぎ、直ちに医師の診療を受ける。被災者に意識がないときには口から何も与えてはならない。また吐かせてもならない。フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。

応急措置をするものの保護：救助者が有害物質に触れないように手袋をする。

5. 火災時の措置

消火剤： 粉末、泡沫、炭酸ガス、乾燥砂

特定の危険有害性：消化水が下線等に流入しないように気をつける。燃焼ガスにはNO_x、CO、SO_x、HCl、HF等有毒ガスが含まれるので、消火作業の場合には煙を吸入しないように注意する。

特定の消火方法：消火作業は可能な限り風上から行う。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。消火のための放水等により、環境に影響を与えないように適切な処置をする。初期消火には二酸化炭素消化剤、粉末消化剤、乾燥砂等を用いる。大規模火災の場合は、泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。容器周辺が火災のときは、容器を安全な場所へ移動する。移動できないときは容器に注水して冷却する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際は保護衣、帽子、防災面、保護メガネ、マスク、ゴム手袋、ゴム等の前掛け、長靴等適切な保護具を着用して行う。飛沫等が皮膚に付着したり、吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を対比させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。漏出した場合の周辺にはロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項：本剤は水生生物に対して悪影響を及ぼすことが予想されるので、土壌汚染を防ぐとともに、下水、排水及びその他いかなる水圏にも流してはならない。

除去方法：少量の場合はオガクズ、土砂、バーミキュライトのような吸収剤で直ちに吸着させて密閉できる容器に回収する。残りは洗剤と水でよく洗浄する。大量の場合には盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。使用した吸収剤、洗浄水は全て密閉できる容器(廃棄物入れ)に回収する。(処分は「廃棄上の注意」の項にしたがって行う。)

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。保護メガネ、保護衣、保護マスク、保護手袋等の適切な保護具を着用し、作業を行う。着用する保護具は常に清潔にする。休憩場所には手洗い、洗眼等の設備を設け、休憩する場合には手や顔をよく洗う。蒸気の発散をできるだけ抑制し、火気、高温の近くで取り扱ってはならない。また、発散した蒸気を吸い込まないようにする。高温で分解すると有毒なガスを発生する。容器の栓は、必要などきのみ開栓し、常時密栓しておく。容器を転倒させる、引きずるまたは、容器に衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。

注意事項：屋外での取扱いはできるだけ風上から行う。取扱いは風通しのよいところで行う。取扱い場所以外の休憩場所等には汚染された保護具を持ち込んではいない。

保管

容器を密封し、換気のよい冷暗所に保管する。火気、熱源より遠ざける。食物、飼料等と離し、無関係者、子供の手の届かないところに施錠して保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：取扱いの際はできるだけ密閉された装置、機器、または局所排気装置を使用する。取扱い作業場の近くに洗眼、洗面、うがい、安全シャワー設備を設置する。

許容濃度：管理濃度 未設定
日本産業衛生学会(2000年度版)、ACGIH(2002年度版) 未設定

個人保護具：状況に応じた適切な保護具を着用する。防毒マスク、耐溶剤性手袋、保護メガネ、防災面、保護衣、帽子、ゴム等の前掛け、長靴等

9. 物理的及び化学的性質

外観：類白色粘性懸濁液体(マイクロカプセル剤)、無臭
比重：データ無し。
pH：5~8
溶解性：水に容易に分散される。
沸点：データ無し。
融点：データ無し。
引火点：>80℃(タグ密閉式)
蒸気圧：データ無し。
粘度：500~2500mPa·s(25℃)
平均粒子径：20µm

10. 安定性及び反応性

安定性：室温において安定。
反応性：反応性無し。
有害な分解物：燃焼するとHCl、HF、CO、SO_x、NO_x等が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性経口毒性：ラットLD₅₀値 (mg/kg) ♂, ♀ >5000
急性経皮毒性：ラットLD₅₀値 (mg/kg) ♂, ♀ >2000
(主な中毒症状：ラットへの経口投与において症状及び死亡の発現は認められなかった。)

| | | |
|--------|-------|---------|
| 眼刺激性： | ウサギ | 極軽度の刺激性 |
| 皮膚刺激性： | ウサギ | 刺激性無し。 |
| 皮膚感作性： | モルモット | 陰性 |

フィプロニル原体とプラレトリン原体については以下の情報がある。

[慢性毒性・長期毒性]

フィプロニル原体： ラット混餌投与 2年間

NOEL 0.02mg/kg/day

影響 体重増加の抑制、痙攣、肝機能更新に伴う甲状腺への影響及び慢性腎症

プラレトリン原体： ラット混餌投与 2年間

NOEL ♂ 3.27mg/kg/day ♀ 4.00mg/kg/day

[発がん性]

フィプロニル原体： ラット混餌投与 2年間

影響 甲状腺腫瘍が認められたが、肝機能の亢進（肝臓における甲状腺ホルモンの代謝促進作用）に伴う二次的な甲状腺刺激作用に起因する反応であると判断された。肝機能の亢進を起こさない用量では、人における甲状腺発がんのリスクはないと考えられる。

発がん性評価

日本産業衛生学会、IARC：未収録

プラレトリン原体： ラット混餌投与 2年間

発がん性無し。

発がん性評価

日本産業衛生学会、IARC：未収録

[変異原性]

フィプロニル原体

エームズ試験、染色体異常試験、DNA 損傷試験、小核試験：陰性

プラレトリン原体

エームズ試験、染色体異常試験：陰性

[生殖発生毒性]

フィプロニル原体

ラット、ウサギ経口投与で催奇形性無し。

NOEL：0.5mg/kg/day (ラット次世代)、1.0mg/kg/day (ウサギ次世代)

ラット混餌投与 二世世代繁殖性試験 繁殖性に影響なし。

NOEL：3ppm

プラレトリン原体

ラット、ウサギ経口、混餌投与で催奇形性無し。

NOEL：10mg/kg/day (ラット、経口、母動物)

300mg/kg/day (ラット、経口、次世代)

100mg/kg/day (ウサギ、混餌、母動物)

200mg/kg/day (ウサギ、混餌、次世代)

ラット二世世代繁殖試験 混餌投与 繁殖性に影響なし。

NOEL：120ppm (親動物) 600ppm (次世代)

12. 環境影響情報

| | | | |
|------|--------|-------------------------|---------|
| 魚毒性： | コイ | LC ₅₀ 値/96hr | 1.9mg/L |
| | オオミジンコ | LC ₅₀ 値/24hr | 15mg/L |

13. 廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。

有毒ガス (HCl、HF、CO、SO_x、No_x 等) が発生する恐れがあるので、排ガス処理設備を備えた焼却炉で焼却する。または産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

空容器：内容物を使い切った後、適切に処理する。

14. 輸送上の注意

容器に異常の無いことを確かめ、転倒、落下しないように積載する。

国連分類：該当しない。

国内法規制：特段の規制はない。

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法

| 指定化学物質 | 2009. 9. 30 まで (改正前) | 2009. 10. 1 から (改正後) |
|--------|----------------------|----------------------|
| フィプロニル | 第1種・18 | 第1種・22 |

(2008年の政令改正による改正後の政令番号を併記しました。2010年3月31日までのPRTR集計は改正前の区分・政令番号、2010年4月1日からのPRTR集計は、改正後の区分・政令番号にもとづいてください。)

水質汚濁防止法：施行令第2条有害物質、排出基準を定める総理府令第1条 (シアン化合物)

廃棄物処理及び清掃に関する法律：施行令第2条の4 特別管理産業廃棄物 (シアン化合物)

水道法：第4条第2項水質基準の省令 (シアン化合物)

下水道法：施行令第9条の4水質基準物質 (シアン化合物)

(労働安全衛生法通知対象物には該当しない。)

16. その他の情報

本データシートの記載内容は、この製品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。またヒトに対する危険、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。